

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション工科基礎科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			服装造形論Ⅰ	・衣服全般の基礎知識を習得する。(縫合の基礎、作図基礎理論、体型観察) ・服作りの基礎となる服の構造、デザイン表現、作図方法、素材の扱い方、縫製方法を各アイテムにおいて習得する。 ・バザー作品を通し、ボランティア精神の育成と既製服としてのデザイン、縫製法、検品、販売までの流れを学習する。 ・ドレーピングの基礎知識を習得する。(ボディについて、布の準備、基礎ドレーピング・マーキング・ドラフティング)	1・通年	120	4	○			○			○	
○			服装造形デザインⅠ	1 基礎Ⅰ (一般知識・縫い方の基礎) 基礎縫いAミシン縫い・B手縫い 2 体型研究 身頃原型・スカート原型(1/4・実物作図)・トワル製作・試着補正・レポート 3 スカートⅠ デザイン・パターン・実物製作・レポート	1・通年	120	4			○	○			○	
○			服装造形パターンメイキングⅠ	4 シャツブラウスⅠ デザイン・パターン・実物製作・レポート 6 子供服 デザイン・パターン・実物製作・レポート 7 バザー作品 文化祭バザー作品実物製作・検品・販売 8 スカートⅡ デザイン・パターン・実物製作・レポート 9 ジャケットⅠ デザイン・パターン・実物製作・レポート	1・通年	120	4			○	○			○	
○			服装造形ソーイングⅠ	10 ワンピースドレスⅠ デザイン・パターン・実物製作・レポート 11 パンツⅠ デザイン・パターン・実物製作・レポート 12 ドレーピング基礎(文化ボディ) 胸ぐせダーツのバリエーション(アームホールダーツ)	1・通年	210	7			○	○			○	
○			量産技術概論・実習	アパレル製品の生産について関心を持たせ、一品作りと量産の違いについて認識させること目標とする。 実習として工業用ミシン・アイロンを主とした生産機器の安全な使用方法を習得する。 生産指示書類の見方に関する講義や特殊機器見学を行い工業生産に関する理解を深める。	1・通年	30	1	○		△	○			○	

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション工科基礎科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			自由研究 I A	・服装造形の全ての細目において、各自興味を持ったテーマについて研究する。 ・各自の目標に合わせ既習細目におけるレベルの向上をはかる。	1・前期	30	1			○	○			○		
○			自由研究 I B	・個々の能力に合わせて知識・技術を応用発展させ、各自の専門性を追及する。 ・発表会(展示会)を行うことにより、プレゼンテーション能力を養う。	1・後期	30	1			○	○			○		
○			ファッションビジネス概論	・ファッションビジネスの基礎知識の理解 ・ファッション産業構造の把握と専門業務の把握による職種選択のための対応	1・後期	30	1	○			○				○	
○			ファッションデザイン画 I	衣服と身体との関連性を理解し、構造を交えながら絵として表現する技術を学習する。マーカーを使用した彩色表現を中心として、多様なアパレル素材の彩色方法を習得する。	1・通年	60	2			○	○				○	
○			クロッキー	様々なものの見方を通じ、ものを見て描く事・表現につながる描写と楽しさを再認識する事と合わせ、個性を伸ばす為の観察力・デザインイメージを見る側に伝える基本描写能力・表現能力の習得を目的とする。	1・通年	30	1			○	○			○		
○			西洋服装史	古代から近世18世紀までは、その時代背景を踏まえ美術史や映画によって服飾を解説していく。19世紀近代以降は、パリオートクチュール・ビジネスが確立し、ファッションが産業化していく過程を解説する。20世紀以降、デザイナーの時代が始まり、合わせてデザイン史、音楽史、映画史などにも触れながら、多方面からファッション史の理解を深める。	1・通年	60	2	○			○			○		
○			服飾デザイン論 I	服飾デザインにおける色彩、形態、コンポジションについての講義及び演習を通して基礎的な知識と技術を身につけ、創造力、分析力を養うことを目標とする。 レベル設定:色彩の基礎知識や配色の基礎、形態の構成要素やデザイン展開、コンポジションのセオリーについて理解し、それぞれのテーマに沿ったビジュアル表現ができる力を有する。	1・通年	60	2	○			○			○		

(3/4)

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション工科基礎科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			アパレル素材論Ⅰ	アパレル製品や各自制作物の素材に関心を持たせることを目標とし、アパレル(衣服)の構成要素である繊維、糸、布地の種類や特徴についての基礎的知識を習得させる。さらに代表的な綿、毛、絹織物の種類に関して、教材(テキスタイルファブリック)を活用しながら、糸の構造や織物組織などの特徴に着目させ理解を図る。	1・通年	60	2	○			○		○		
○			服飾手芸Ⅰ	服飾手芸全般における基礎知識を学び、それぞれの技術を基にして服飾造形及び服飾小物などに応用発展できるようにする。また、素材・テクニック・造形・色の組み合わせのバランス感覚を習得し、クリエイティブかつオリジナルな創作力を身につけることを目標とする。	1・前期	30	1			○	○			○	
○			服装解剖学Ⅰ	解剖学的な人体の構造を衣服パターンと関連づけながら理解させ、美的で機能的な衣服製作に必要な人体(骨格)に関する基礎知識を学習させる。次に人体を外観から観察し、形態やプロポーションを認識させる。	1・後期	30	1	○		△	○			○	
		○	英会話(自由選択)	日常生活の中、またファッションに関する事例からトピックを選び、それに関連した英語表現を学ぶ。文法事項の復習と補充、ロール・プレイを通じた会話練習、聞き取り、英作文などを組み込んだ構成とする。	1・後期	30	1	○			○			○	
○			キャリア開発Ⅰ	『将来を考える』という基本テーマを通して、自身の今後のキャリアを考え今後学ぶべきことを考えるとともに、「聴く・話す・書く力(読む)」を養うことを目的とする・各自の適性を把握し、進路について考え将来の方向性を決める。	1・通年	30	1	○			○			○	

(4/4)

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション工科基礎科) 2021年度

分類							授業方法	場所	教員
----	--	--	--	--	--	--	------	----	----

必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	企業等との連携	
○			特別講義 I	・ファッション業界の各分野において幅広い知識・技術を修得すると共に、各自の専門性を考える動機付けを目標とする。 ・レギュラー授業で包括できない部分の専門関連分野の知識を習得する。	1・通年	30	1	○			○				○	
○			校外研修 I	美術館見学等を通して、ファッション情報に関する見聞を広げる。 諸活動を通してコミュニケーション能力の向上を目指す。	1・前期	30	1			○		○			○	
		○	コラボレーション ^a	・1年次では、産業とのかかわりを持つことにより、企業とその実務を知るきっかけをつくり、課外活動(コンテスト活動など)への積極的参加を推進することを目標とする。 ・個々の能力に合わせて各自の専門性を追及する。	1・後期	30	1			○	○				○	
合計				18科目	1,110単位時間(37単位)											
卒業要件及び履修方法										授業期間等						
単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること										1学年の学期区分		前期・後期				
										1学期の授業期間		15週				
(留意事項)																
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。																
2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。																

(1/8)

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 アパレル技術科) 2021年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			パターン メーカー 理論 I	・平面裁断・立体裁断(工業用ボディ使用)によるパターンメーカー理論を体系的に習得する。 ・量産を意識したアイテム・素材別の工業用パターンメーカー理論および縫製仕	2・通年	60	2	○			○				○	

○		ファッションビジネス論Ⅰ	ファッションビジネスの基礎知識の復習と現状の理解を深める。さらに、日本のファッション産業の構造の把握と世界のアパレル産業の現状を比較して、近未来のファッションビジネスの方向性を探る。	2・前期	30	1	○			○							
○		コンピュータワーク(基礎)	衣服の構造を理解し、その視覚的伝達表現ツールとしてパーソナルコンピュータ及び、グラフィックソフトを使う能力を身に着ける。アパレル生産における実務能力の習得、向上を目標とする。衣服製品図の製作を通してグラフィックソフトの基礎技法習得を目指す。	2・後期	30	1				○	○						
○		英会話Ⅰ	初級程度の英文法を学んだ学生を対象に、文法の復習と口頭でのアウトプットを主な目標とする。ファッションを専攻している学生を対象としているため、ファッション関連の語彙を増やすこと、ファッション関連の表現に接することにも重点を置いたプログラムとしている。レベルは初級(中位)から中級まで。	2・通年	60	2				○	○						○
○		フランス語Ⅰ	初めて学ぶフランス語の音と仕組みに、母国語とは異なる面白さを感じられるよう、個々の興味を促し、発音練習を楽しめるようにする。日常生活で使われる簡単な会話表現を「聴く、話す、読む、書く」を通じて親しみ、基本文法の理解と共に簡単な自己紹介、質疑応答が出来るレベルから目指す。映画や音楽、ファッション、香水などの話題も紹介しながら、フランス文化に触れる機会も提供する。	2・通年	60	2				○	○						○
○		中国語Ⅰ	発音の土台「ピンイン」から始め、難関の「四声」「変調」「巻き舌音」をマスターします。入門段階では、単語を蓄積しながら文型入り、実践練習で会話表現を覚えます。初級段階では、時制のニュアンス、意思の伝え方を学びます。中検準4級基準。準中級段階では、疑問表現を学ぶほか、物事の比較・類似・比喻表現についてトレーニングします。中検4級基準。	2・通年	60	2				○	○						○

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 アパレル技術科) 2021年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			キャリア開発Ⅱ	学生が就職を志望する先に内定するために必要な「就職力」を講義＋実習を通して身につけさせる。	2・後期	30	1			○	○			○	○
○			特別講義Ⅱ	・レギュラー授業で包括できない部分の専門知識、専門分野の講義、実技指導、実習を行う。 ・生産技術の専門性を高める。 ・業界や職務に関する理解を深め、就職への意識を高める。	2・通年	60	2	○			○				○
○			校外研修Ⅱ	・国内の工場、メーカーの見学を通し、生産の現状、物づくりに対する姿勢、品質向上の取り組みなどについて理解を深める。 ・美術鑑賞や能見学を通し、感性を磨き視野を広げる。	2・後期	30	1				○	○			○
	○		企業・学内研修 a	・企業研修ではファッション産業界の各分野において実際に職業体験を行い、職業人として役立つ人材の育成と就職に向けての意識を高める。	2・後期	30	1				○	○			○
	○		企業・学内研修 b	・企業研修に参加しない学生は学内研修を行い、ビジネス常識と専門分野の実務について学ぶ。	2・後期	30	1				○	○			○
		○	コラボレーション b	・外部団体・企業等とのコラボレーション活動にグループで参加し、知識、技術の向上とともに社会人としてのキャリアアップを図る。 ・協業することで学生は自己の可能性を発見し、業務の進め方、プレゼンテーション方法を学び、視野を広げる手立てとする。	2・通年	30	1				○	○			○
学年合計				19科目	1,110単位時間(37単位)										

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 アパレル技術科) 2021年度												
分類									授業方法	場所	教員	

必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	企業等との連携	
○			パターンメイキング論Ⅱ	平面裁断・立体裁断によるパターンメイキングや工業パターンメイキング理論を理解し応用発展できる能力を養う。1・2年で習得した知識と技術を応用発展させ、機能服やニット作品、皮革作品などの細目から素材の特性を生かし、かつ生産効率を考え市場を意識した仕様・縫製方法を学ぶ。	3・通年	60	2	○			○			○		
○			パターンメイキング演習 ドラフティングⅡ	スローパー 各種原型解説及び作成（パンツスローパー、ブランド原型）・裏付パンツ前あき部分縫い バザー作品（コート） バザー作品ドラフティング・コートドラフティング・2種ドレーピング・無飾リアウトポケット部分縫い	3・通年	150	5			○		○			○	
○			パターンメイキング演習 ドレーピングⅡ	機能服 マチドラフティング・ニットドレーピング 皮革作品 ジャケットドレーピング・皮革作品ドラフティング 工業パターン・実物製作・衿袖ぐり続き見返し、突合せファスナー部分縫い・レポート（前期まとめ）	3・通年	150	5			○		○			○	
○			パターンメイキング演習 ソーイングⅡ	ニットファブリック ニット作品・ドラフティング・工業パターン・実物製作 カジュアルウェア カジュアルウェアドラフティング・工業パターン・実物製作・逆玉縁ポケット部分縫い・レポート ドレープ・フリル・カスケード ドレープドレーピング・フリル、カスケードドラフティング	3・通年	120	4			○		○			○	
○			パターンメイキング演習 工業パターンⅡ	トワリスト・モードコピー どちらかを選択し実物同様の作品製作 卒業制作ショー準備 アクセサリー製作・歩行練習	3・通年	90	3			○		○			○	

(6/8)

(ファッション工科専門課程 アパレル技術科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			デザインパターン	デザイナーとパタンナーの仕事に近い形でトレーニングする授業。デザイン解釈～フルパターンの実戦に近いパタンナーの仕事を実習。デザイナーが要求するデザインを実現させるため、個々に対話しながら良いパターン、パタンナーとは何か考察、考える力を習得することを目指し、パターンがデザインにおいていかに重要な役割かを理解する。デザイン1、2と反復練習することで技術の向上を目指す。弊社ブランドの実際に使っているパターンも公開する。	3・前期	30	1			○	○		○		
○			CADパターンメイキングⅡ	アパレルCADを利用した演習を通し、合理的な考えで主にパターン展開を学ぶことを目標とする。 CADパターンメイキングⅠ（基礎）に続き単機能に加え、高精度で効率の良い結果を実現させるため複合機能も活用する。また、並行して履修する「量産技術実習Ⅱ」とリンクさせ、生産用パターンに必要な要素の理解を深める。他、CADデータを利用した帳票類作成、CADグレーディングも含む。	3・通年	90	3	○			○			○	
○			量産技術実習Ⅱ	アパレル生産プロセスに基づき、企画した製品が生産されるまでの組織的な生産活動を体験することを目標とする。 グループを会社組織として分業体制で設立し、品質(Q)・コスト(C)・納期(D)を実現させながら、メーカー側の製品企画・工場側の製造企画に始まり、生産活動を通して「モノ」「情報」の流れを掴む。また、並行して履修する「CADパターンメイキングⅡ」とリンクさせ、生産に必要な情報の相互理解を図る。	3・後期	60	2			○	○				○
○			カット&ソー	カットソーの基礎知識、ニットアパレルを理解するために必要な商品知識の習得 カットソー素材の服作りにおけるミシン類の基礎知識、技術の習得 カットソー素材のパターン作成、指示書作成までを理解する。	3・前期	30	1			○	○			○	
○			工業ニット演習	ニット製品の製作工程や編立技術などを総合的に学び、アパレルの中のニットを理解できる人材を育成する。ニットに使用される素材・編地・縫製技術を商品解説と共に実習を通じて理解を深める。	3・後期	30	1			○	○			○	

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 アパレル技術科) 2021年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		縫製研究 (「ジャケット」シングル二つ釦ノッチドラペルの縫製を1950年代からのTailor & Dressmakingの事実及び技術を研究また実習し、そこから新しい知識や見解を得て、それを現在主流の量産品の縫製に融合させ、高品質化を図れる有益な能力を取得することを目指す。	3・前期	30	1			○	○		○		
	○		企画・デザイン研究	講義外課題および作業が出ないようにする。 就職活動に有利な即戦力を意識した内容。	3・前期	30	1			○	○		○		
	○		工場生産研究	縫製工場の生産方法及び工程を理解する。 高級服の品質で洋服作りが出来るようになる。	3・前期	30	1			○	○			○	
○			生産管理各論 品質管理	アパレル・小売企業が求める審美性、コスト、納期と消費者が求める品質を備えた製品を生産するために必要な品質管理について基本的な知識と、実際の現場を踏まえた情報を合わせ、より現実的な知識と技術を学ぶ。	3・後期	30	1			○	○			○	
	○		英会話Ⅱ	基本的な文法の確認をしつつ、ファッションをテーマとした会話の練習ができるコースを目指す。ファッションに関連した語彙を増やす事も目的の一つである。リスニングの練習も組み込み、英語運用力を高める。	3・通年	60	2			○	○			○	
	○		フランス語Ⅱ	フランス語の発音・表現に親しみながら、基本文法の理解に基づく平易な文章読解および日常会話に必要なスキルの向上を目指す。文化の多様性に意識を向け、母国語とは異なる言語の仕組みや発音の特徴に興味を持って意識できる機会を多く設ける。目標レベルは、実用フランス語技能検定試験5～4級。	3・通年	60	2			○	○		○		

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 アパレル技術科) 2021年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○		中国語Ⅱ	応用力養成：疑問詞を用いて問答式の促進を行います；夫々に合う日本語例文を示し、中国語への転換及び会話練習をします；中検2級基準。 会話練習：日常シーンに即した語彙、及び衣食住行等の中国文化と外国文化の結びつき方を習います；社会環境的なムードによって生じた異なる言語表現を習います。 服装関連：ファッション関連用語・工場用語に関する中国語語彙を習います。	3・ 通 年	60	2			○	○		○		
	○		特別講義Ⅲ	レギュラー授業で包括できない部分の専門関連、専門分野の知識習得を目的とする。 実社会の動向、現状、情報、未来への展望や、様々な関わりに対処する為の考え方、アドバイスをファッション業界の講師による講義を聞き知識を習得する。	3・ 通 年	60	2	○			○			○	
		○	コラボレーション。	アパレル企業からの提案を元に企画から完成まで行う。企業からの協力により製品作りを体験し、その経緯から実社会での実務経験を体感する。レギュラー授業では学ぶことが出来ない経験を積む。	3・ 通 年	30	1			○	○		○	○	
	○		卒業研究・創作	3年間の集大成として最終課題にふさわしいテーマを個々に設定し、オリジナル素材作りに始まり習得したテクニックを駆使し制作する。アクセサリーからヘア・メイク、などに至るまで総合的にデザインを生かしてコーディネートし、卒業制作ショーで発表する。	3・ 通 年	120	4			○	○			○	
学科合計				15科目	1,110単位時間(37単位)										
総合計				51科目	3,330単位時間(111単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること	1学年の学期区分	前期・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
 - 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。
-

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 アパレル技術科生産システムコース) 2021年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			CADグレーディング	アパレルCADグレーディングの概要の理解と基本的操作の修得。簡単なアイテムをCADグレーディング出来るレベルまでを目標とする。	3・通年	60	2			○	○		○	○	
○			パターン メーカー Ⅱ	・工業パターン理論・平面作図・立体裁断の応用発展できる能力を養う。 ・素材と仕様の適合、カバー率、加縫性を考慮した生産性の高いパターンメーカー・縫製技術の習得を目指す。 1. 原型 タイト原型からブランド原型への展開 ジャケット原型を利用した身頃作成、袖作成	3・通年	120	4			○	○		○		
○			パターン メーカー 演習 工業 パターンⅡ	2. コート (バザー) 量産技術実習・CADパターンメーカー各教科と連携した、コートのグループ製作 分業生産に必要な各種帳票類の作成は、コンピュータワーク (生産管理) と連携 3. ジャケット 市場を意識した各自企画デザインによるジャケットの作成	3・通年	120	4		○		○		○		
○			パターン メーカー 演習 ソー イングⅡ	4. パンツ 市場を意識した各自企画デザインによるパンツの作成 パンツ原型からの平面展開 5. コート 市場を意識した各自企画デザインによるコートの作成	3・通年	60	2		○		○		○		
○			生産実習	他者が作成したパターンを使用した縫製実習を行うことにより、狙いの品質を実現するための情報伝達の重要性を、体験を踏まえて理解する。	3・後期	30	1			○	○		○		
○			ニット生産 実習	丸編みカットソーの立体裁断とパターン、縫製の基礎的知識と応用 美しいシルエットを作る立体裁断のパターンとカットソー縫製指導。	3・通年	60	2			○	○		○		

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 アパレル技術科生産システムコース) 2021年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			CADパターンメイキングⅡ	アパレル産業において工業化された設計・生産・製造のプロセスを認識し、生産技術の1分野である設計に活用される『アパレルCAD』システムを利用して、工業生産設計の流れと設計の考え方・手法・方法の理解を深め、設計システムの構築とその管理迄の内容を行う。	3・通年	60	2			○	○		○		○
○			量産技術実習Ⅱ	生産プロセス（企画デザイン～パターンメイキング～生産準備工程～縫製まで）の実務を通し、生産管理各論で学んだ理論の理解を深める。また原価・品質・納期・数量の管理をおこなう。	3・前期	60	2			○	○		○		
	○		縫製研究	「ジャケット」シングル二つ釦ノッチドラペルの縫製を1950年代からのTailor & Dressmakingの事実及び技術を研究また実習し、そこから新しい知識や見解を得て、それを現在主流の量産品の縫製に融合させ、高品質化を図れる有益な能力を取得することを目指す。	3・前期	30	1			○	○		○		
	○		企画・デザイン研究	講義外課題および作業が出ないようにする。 就職活動に有利な即戦力を意識した内容。	3・前期	30	1			○	○		○		
	○		工場生産研究	縫製工場の生産方法及び工程を理解する。 高級服の品質で洋服作りが出来るようになる。	3・前期	30	1			○	○			○	
○			生産管理各論 製品企画	教育目標:アパレルメーカーの・設計・生産部門業務となる製品企画プロセスを考察し、技術系専門職の責務とその専門力を修得させる。 レベル設定:工業製品の産出過程を専門的に捉えず、一般論として学生が受け入れられ理解出来る講義内容を設定。	3・前期	30	1	○			○		○		○

(ファッション工科専門課程 アパレル技術科生産システムコース) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			生産管理各論 生産企画	アパレル製品を生産する上で必要となる業務について、メーカーにおける生産関連担当者の職域を中心に学ぶ。 商品企画段階で設定される、品質(Q)・原価(C)・納期(D)を高水準で成立させることを目標に、生産実務に至る準備段階から事後処理までを体系的に理解する。グローバル化に伴う海外生産の拡大も視野に入れ、今後のアパレル生産の行方を考慮の上、各自でアパレル製品の生産企画を立案する。	3・通年	60	2	○			○		○		
○			生産管理各論 製造企画	[到達目標]：アパレル製造は、グローバルサプライチェーンの中で展開されるが、この現状を把握し、アパレル製造の機能と方法を理解する。また、日本のアパレル生産の現状を理解し、今後の取り組み課題について各自考察する。 [レベル設定]：工業製品であるアパレルの製造に必要な機能と製造方法、管理方法を概念的に理解できる程度。	3・後期	30	1	○			○		○		
○			生産管理各論 品質管理	アパレル・小売企業が求める審美性、コスト、納期と消費者が求める品質を備えた製品を生産するために必要な品質管理について基本的な知識と、実際の現場を踏まえた情報を合わせ、より現実的な知識と技術を学ぶ。	3・後期	30	1	○			○			○	
○			コンピュータワーク(生産管理)	応用的なアパレルCADの使用方法和、アパレルCADを中心とした様々なソフトウェアを活用し、生産に必要な帳票作りを身に付けることを目標とする。同じ帳票類を様々な方法で作成することにより、ソフトウェアのメリット、デメリットを認識する。3次元仮想ボディデータ作成や、仮想着装シミュレーションなど最先端のCADオペレーションを体験する。	3・前期	30	1				○	○		○	

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 アパレル技術科生産システムコース) 2021年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アパレル貿易実務	・アパレル生産、特に海外との取引事情、流通や貿易の流れ、それに付随する経済・社会情勢などの環境についての概略を理解する。 ・アパレルメーカーのスタッフとして業務遂行可能な貿易実務の基礎知識を習得し、関連用語を理解する。	3・後期	30	1	○			○		○		○
○			マテリアル論	アパレル製品の主な材料であるテキスタイルを、編織の技法や工夫、染色加工、特殊加工など生産の観点から理解させる。また、工場、産地、見本市などのテキスタイル産業とアパレルが実際にどのように関わり、製品が作られて行くかを学ぶ。	3・前期	30	1	○			○		○		
	○		英会話Ⅱ	基本的な文法の確認をしつつ、ファッションをテーマとした会話の練習ができるコースを目指す。ファッションに関連した語彙を増やす事も目的の一つである。リスニングの練習も組み込み、英語運用力を高める。	3・通年	60	2	○			○			○	
	○		フランス語Ⅱ	フランス語を1年学んだ学生を対象としたクラス運営を目標とする。フランス語独特の音に慣れ、基本的な文法・動詞の活用ができるようにする。またフランス語で簡単に日常的にかわす挨拶ができるように、また初歩のコミュニケーションをフランス語でできることを目指す。	3・通年	60	2	○			○			○	
	○		中国語Ⅱ	応用力養成：疑問詞を用いて問答式の促進を行います；夫々に合う日本語例文を示し、中国語への転換及び会話練習をします；中検2級基準。 会話練習：日常シーンに即した語彙、及び衣食住行等の中国文化と外国文化の結びつき方を習います；社会環境的なムードによって生じた異なる言語表現を習います。 服装関連：ファッション関連用語・工場用語に関する中国語語彙を習います。	3・通年	60	2	○		○	○			○	

○		特別講義Ⅲ	アパレルの生産プロセス全般についてさらに専門知識を深める。	3・ 通 年	30	1	○			○		○		
---	--	-------	-------------------------------	--------------	----	---	---	--	--	---	--	---	--	--

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 アパレル技術科生産システムコース) 2021年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	コレボレーション	アパレル企業協力のもと、製品としてのモノ造りの仕組みを学ぶ。必要に応じ、デザイナーからのデザイン指導・パタンナーからのパターン指導や縫製チェックなどを行う。実務としての作業を経験する。	3・通年	30	1			○	○		○		
○			卒業研究・創作	・3年間の集大成として研究テーマを決め、レポート作成と実物作品の製作をする ・プレゼンテーションと展示形式で発表を行う	3・通年	120	4			○	○		○		
合計				20科目											1,110単位時間(37単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること	1学年の学期区分	前期・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。